

外国籍県民かながわ会議（第13期・第8回） 議事録

開催日：2025（令和8）年1月17日（土曜日）
場所：かながわ県民センター3階 301会議室

1 開会（事務局）

会議のルール、会議の録音、欠席者及び配布資料等について説明した。
（柳委員長）

- ・ 次回のオープン会議後に提言修正を行い、12月に知事へ提出する。
本会議は、オープン会議で提案する仮の提案を作成したい。部会に分かれての話し合いでは、提言の形を作ることを意識しながら進めて欲しい。

2 部会別会議

(1) 前回の振り返りについて

（事務局）

- ・ 前回、12月は懇話会委員に御講義いただいた。
- ・ 菊池委員からは、メディアを通じた災害に関する情報発信、外国人の背景・価値観の多様化、様々な媒体による多言語情報の発信、平時からのネットワークづくり等について御講義いただいた。
- ・ 高橋委員からは、在県枠拡大の経緯、外国につながる生徒が受ける入試制度の現状等について御講義いただいた。
- ・ 藤浪委員からは、NPO法人の取組をもとに、高校入學に向けたガイドブック等の学習支援、心のサポート事業等について御講義いただいた。
- ・ 懇話会委員の方々の御講義での情報を活用して、既存の取組を発展させるなど、提言をよりよくしていただきたい。

(2) 部会別協議（情報部会）

ア 今後の提言の方向性について

（事務局）

- ・ これまでの会議を基に情報部会の提言の方向性について、整理した。
- ・ 今後は、情報部会内で2種類の提言が想定される。

- ・ 現在流通している情報の伝達について、オオシロ副委員長、モラレス副委員長、松村委員が担当する。本会以降、情報の対象、手段についての詳細を考えたい。
- ・ 新たな情報発信について、蔣委員、ストービー委員が担当する。本会以降、生活オリエンテーション、実施タイミング、手段についての詳細を考えたい。
- ・ 外国籍県民が安心して暮らせる、医療や防災等に焦点を絞るとよい。
- ・ 教育関連は、既存の情報が多くあるため、情報をどのように伝えるかについて外国籍目線の提言が出来るとよい。
- ・ 外国の方が増えてきていることから、生活オリエンテーションで市町村がどのように情報を伝えることが出来るのかについて、長く日本で暮らしている方、新しく日本に来た方の場合分けが出来るとよい。

イ 生活オリエンテーションについて (モラレス委員)

- ・ オンデマンドで情報発信が出来るとよい。

(蔣委員)

- ・ 外国籍の方がいつでも見られるような情報発信ということか。

(オオシロ副委員長)

- ・ 自治体によってルールが異なるため、生活オリエンテーションを実施するとなれば、各自治体に要請して、翻訳・通訳する人を雇ってもらう必要があるのではないか。

(モラレス委員)

- ・ QRコードから各市町村のリンクに繋がれるように、QRコードを活用することで情報を効果的に発信出来る。生活ルールをオンデマンドで発信出来るるとよい。

(蔣委員)

- ・ 出入国在留管理庁では、17言語で様々な情報発信を実施している。

(オオシロ副委員長)

- ・ 動画やPDF等では多言語の情報があがるが、情報発信自体は日本語で行われていることが多い。

(蔣委員)

- 既存の情報を活用し、各市町村の内容を追加で入れるとよい。日本語講座での開催では、対象者の範囲が狭くなるため、避難訓練の開催場所と一緒に実施しても良いのではないかな。

(事務局)

- 働く外国人が来日した際、外国人受け入れに関する生活オリエンテーションを実施することについてはどのように考えるか。

(蒋委員・オオシロ副委員長)

- 企業を対象に実施し、かつ企業連携が理想と考える。

(蒋委員・事務局)

- 情報が必要な段階は、世代によっても変わる。生活オリエンテーションが必要となるタイミングを考える必要がある。

- ライフステージごとの生活オリエンテーションがよいのではないかな。

(蒋委員)

- 国により問題が異なるため、生活オリエンテーションの実施言語については国ごとの言語である必要がある。

- 日本語講座を活用したオリエンテーションでは、来日してすぐの人がメインターゲットとなり、そのコンテンツは充実しているため、その他の対象も含めて考えたい。

- 生活オリエンテーションの中で災害について学ぶ機会があるとよい。または、災害のイベントの際に、生活オリエンテーションを組みこむことについて考えてもよい。

ウ 教育に係る情報発信について

(オオシロ副委員長)

- 教育に関する情報を得る際、外国の方は身近な人に頼る印象がある。孤立している方が情報を見つけることが出来る環境を整えたい。

- 団体・コミュニティとの連携が出来たらよい。教育歴が長い保護者から知ること、学ぶことが出来る。外国人が多い市町村で実施出来るとよい。

- どの学校でも分かりやすいガイドブックの周知が出来ると良い。

(蒋委員)

- 既に県内で統一された多言語情報や高校進学ガイダンスが豊富にある。
- 基本的に、学校への配布は実施しているため、既にある情報の活用を

かんが ひつよう たと せんせい しゅうち
考 える必要がある。例えば、先生への周知。
(まつむらい いん
松村委員)

- ・ ABC ジャパンの動画があるが、実際の学校現場に行くと、情報が広がっていない。

(しょう いん
蔣 委員)

- ・ 学校の先生がカバーするのが難しい場合もある。また、国際教室もどこでもあるわけではない。今後どのように進めればよいのか教育委員会に相談してもよいのではないかな。

(おおしろ ふういん ちやう
オオシロ副委員長)

- ・ コミュニティへの情報周知が理想だと思いつつも、コミュニティがない地域があるため、対象者について先生・保護者に焦点を当てたい。

ウ オープン会議に向けた準備について

(おおしろ ふういん ちやう
オオシロ副委員長)

- ・ 教育に係る情報発信について、オオシロ副委員長、松村委員が提言構想メモを主に作成し、モラレス委員、ハリソン委員がパワーポイントを主に作成する。
- ・ 生活オリエンテーションについて、蔣委員が提言構想メモを主に作成し、ストービー委員がパワーポイントを主に作成する。

(3) 部会別協議 (生活向上部会)

(りゅう いん ちやう
柳委員長)

- ・ 提言の素案、パワーポイントについては自身の部分を担当されたい。
- 異議なし。

ア 柳委員長の提言について

(りゅう いん ちやう
柳委員長)

- ・ 提言構想メモの①では幼少時、②では高校教育における母語母文化教育について書いた。この②と李周殷委員の国際理解教育をあわせ、外国につながるのある子どものアイデンティティに係る教育の充実を求めていくという点でまとめるとよい。関西の高校の母語授業は、日本人の生徒とともに文化や風習を学び、国際理解の場ともなっている。

- ・①は対象が異なるため、そのまま残す。

(李周殷委員)

- ・日本人の生徒の国際理解にもなるので、②とまとめてよい。

イ 倉橋委員の提言について
(柳委員長)

- ・倉橋委員が高齢者の支援団体に話を聞いている。高齢者に係る提言を1つ作る方向で進めてよい。
- 異議なし。

ウ 愈委員の提言について
(柳委員長)

- ・当初は在留要件を3年にする案だったが、県民会議で提言した経緯や、受験できる生徒が少なくなることを考慮すると、実現は難しい。

(愈委員)

- ・在県枠を増やせばよい。
- ・中3の時点で学習支援を行い、より高いレベルの高校を目指せるとよい。来日から受験まで期間がある場合、フリースクールが学習支援をする。

(柳委員長)

- ・②の多くの生徒に教育の機会を与えてほしいという趣旨のみ残し、①で在県枠の定員増を求めることとする。③はそのまま残す。

エ 王委員の提言について

(ア) 在留資格に係る提言について

(王委員)

- ・第8期でも在留資格の更新に係る通知について提言しているが、現在まで実施されていない。在留カードの更新や更新に伴う諸手続(健康保険、マイナンバー等)について、多言語で一覧を作成の上で、県のホームページ等で発信する、市町村窓口における案内を作成する、SNSで発信する等、わかりやすい情報提供のための総合的な体制を整備してほしい。

(柳委員長)

- ・生活向上部会として提言するのであれば、体制づくりへの志向を持って

ほしいという趣旨^{しゆし}でまとめる必要がある^{ひつよう}。

(イ) 外国免許^{がいこくめんきよ}の切替^{きりかえ}に係る^{かか}提言^{ていげん}について
(王委員^{おういいん})

・外国免許切替^{がいこくめんきよきりかえ}の課題^{かだい}を明確^{めいかく}にするため、予約^{よやく}や相談傾向^{そうだんけいこうとう}等の実態把握^{じったいはあく}を実施^{じっし}すること、県と県警^{けんけんけい}との連携^{れんけい}について新たに記載^{あら}した。また、筆記^{ひっき}試験^{しけん}にオンライン方式^{おんらいんほうしき}を導入^{どうにゆう}できるとよい。国への要望^{くにようぼう}についても記載^{きさい}したが、これは要検討^{ようけんとう}。将来的^{しょうらいてき}に、人員^{じんいん}の予算措置^{よさんそちふく}含め全国的な運用^{ぜんこくてきうんよう}の見直し^{みなお}ができないか。

(柳委員長^{りゅういんちょう})

・このテーマでの提言^{ていげん}は初めて。国への要望^{くにようぼう}のハードルは高く、県への提言^{けんていげん}が現実的^{げんじつてき}。

(李周殷委員^{いじゅういん})

・現実的^{げんじつてき}に可能な提言^{かのうていげん}をしてはどうか。都と異なり、神奈川県では更新^{とことかながわけんこうしん}のために長く待つと聞いた。

(柳委員長^{りゅういんちょう})

・まず実態把握^{じったいはあく}のために県警^{けんけい}にヒアリングをする。③は難^{むづか}しい。

オ ドン委員^{いん}の提言^{ていげん}について

(李方舟委員^{りはこふねいん})

・会社^{かいしゃ}に AI を導入^{どうにゆう}したが、効率化^{こうりつか}の成果^{せいこ}としては微妙^{びみょう}で、ミスも多いと聞いた。AI の言語習得^{げんごしゅうとく}には、まだ時間^{じかん}がかかるだろう。

(王委員^{おういいん})

・AI は簡単な書き直し等^{かんたんかきなおとう}はできるが、肝心な部分^{かんじんぶぶん}には人が関わり、判断^{ひと}する必要がある^{かか}。行政窓口等^{はんだん}での活用^{ひつよう}の提言^{ていげん}は出来るかもしれない。

(李周殷委員^{いじゅういん})

・韓国の行政^{かんこくぎょうせい}では AI を活用^{かつよう}していないが、企業^{きぎょう}では活用^{かつよう}している。AI は文章^{ぶんしょう}の精度^{せいど}が高く、そうでないものと判断^{たか}がつきにくい。

(柳委員長^{りゅういんちょう})

・AI の活用^{かつよう}には判断能力^{はんだんのうりよく}が必要^{ひつよう}であること、問題解決^{もんだいかいけつ}のために AI があり、活用^{かつよう}したから全ての問題^{すべもんだい}が解決^{かいけつ}するわけではないことに留意^{りゆうい}したい。今回の意見^{こんかい}をドン委員^{いけん}に共有^{いいんきょうゆう}し、提言^{ていげん}を考^{かんが}えてもらう。

カ バ委員の提言について
(柳委員長)

- ・交流イベントは自治体で多く行われているが、参加が少ない理由を考
えることが必要。長年イベントに取り組んできた団体が、クレームを受けて
続けられない可能性が生じたという現状もある。こうしたことを踏まえ、
バ委員が提言のポイントを整理する必要がある。

キ 韓委員の提言について
(柳委員長)

- ・危機管理防災課へヒアリングし、提言を修正した。日ごろからネットワ
ークがあれば、発災時に迅速に本国からの支援物資の支給や情報発信がで
きるの、行政と団体で会議体を設置したいという趣旨。
・災害に限らず、外国人に関わる諸問題へ対応できるネットワークにしたい。
→異議なし。

ク 李 方舟委員の提言について
(李方舟委員)

- ・外国人向けに心理相談を実施する団体でも、実際には専門のカウンセリ
ングではなく普通の会話をするだけなので、効果がなかったとの意見を聞いた。
(王委員)
・専門的なフィードバックが必要なら通院しなければならない。
(柳委員長)
・通院する前に、同じ国・同じ悩みのある人で話ができると改善が見込め
るので、そうした場を作ってほしいという趣旨か。

- (李方舟委員)
・定期的に一緒に話せるイベントがあるとよい。言語の問題のほかに、
経済的な悩み、友達が作れないといった事情を抱えている場合もある。
(柳委員長)

- ・外国につながるのある人がメンタル面でしんどくなる傾向について、県に
知ってもらふこと、どうケアしていくかが提言のポイントになる。コミュニ
ティにつながっていない場合にどう解決するか、具体的にどのように場を作

ってほしいかも明確にしてほしい。外国人相談窓口への専門人材の配置や、
相談員に対する教育等が考えられる手法。

(事務局)

・提言では課題感を明確に、具体的な方法を記載してほしい。心理相談の
相談窓口は来年度開設する予定。

3 全体会議

ア 生活向上部会について

(柳委員長)

各委員の要検討事項について共有した。

イ 情報部会について

(オオシロ副委員長)

- ・情報部会は、教育に係る情報発信と生活オリエンテーションの2つの提言作成を実施する。
- ・教育に係る情報発信について、保護者、教員を対象を絞り、ガイドブックの周知、情報周知について考える予定。
- ・生活オリエンテーションについては、ライフステージごとの状況を踏まえ、防災と絡めて提言を作成する予定。

4 閉会(事務局)

- ・次回の会議はオープン会議であることを説明した。
- ・オープン会議の実施概要について、資料3に沿って説明した。